武雄市図書館に行ってきました（V）

武雄市図書館が、なぜ、悲しいのか！

○○高校　○○

国立国会図書館の入り口には、「真理は我らを自由にする」というメッセージが掲げられています。（残念ながら、写真に撮るには面倒な手続きが必要です）この意味を反芻するたびに、「図書館は民主主義の砦」と考えてきました。「私たちは、真理を追究し、のびやかに、人生を発想するために、図書館を使うのだ。図書館は人々が、真理を追究するために役に立つためにあるものだ」と。志を高く持って仕事をしてきました。図書館は民間では、この役割は果たしえないはずです。公的に存在してこそこの役割をはたします。武雄図書館の人たちは、悩まないのでしょうか。だって、「図書館の理念」と、違いすぎますもの。こんなはずじゃなかった・・・と、思われないのでしょうか。

図書館は使われてはじめて「図書館」って、言えます。コンビニのように、気軽にぶらっと寄ってみるような敷居の低さが必要です。その雰囲気を作り出すために、私たち司書はいろいろな工夫を凝らしてきました。季節感を出すために、飾りつけをしたり、話題をとらえてはテーマ展示をしたりというような努力です。それを「民間活力の導入」と、言えると思います。公的機関であってもその程度の「営業努力」は、やってきたのです。「本を貸してやる」ではなく「利用してもらう」というスタンスの変化です。

武雄市図書館は、あまりに商業主義すぎます。手前の本屋さんがなんとも悲しい。

図書館の本には、確かにラベルが貼ってありますが、一段ラベルですから、本当に見ずらく目立たないので、本が並べにくいし、並んでいません。日本の物語、小説も何パターンもあって、一応作者別となっていますが、何カ所もさがさなくちゃなりません。ぶらぶらすればいいだけのことでしょうが、・・図書館の本を探しやすくしていないのは、ツタヤの本を買うことに走るように・・でしょうかと、思えてもきます。

利用者の視点はどこにいったんでしょう。閲覧室らしきエリアには、勉強している人たちがいましたが、手元にあって、利便性よく配架するはずの辞書類はハシゴを持ってこなければ届かない場所にありました。箱に入っている辞書もありました。他の公共図書館と違って、極端に小学生以下の子どもに逢いませんでした。これまでの公共図書館は「子ども」を中心にしてきたのではなかったでしょうか、そういう意味では、「冒険」が始まったのでしょうが、今のところ、暴挙でしかありません。

驚いたことに、○○市の教育委員会の方に出会いました。まったく個人的な見学ではありましたが、○○市にも図書館を作る構想があることも知りました。「ここはいろいろ問題がありますのでね、参考にしないでください。○○高校の図書館を参考にされていいと思いますよ」と、アツく語ってしまいました。名刺を頂戴しましたので、翌日（22日）、資料をドサッと届けておきました。注目してますよ！！という意思表示だけはしておきました。一秒でも速く、離れたくて、猛スピード？で帰りました！！

武雄市図書館の問題は武雄だけの問題ではないのです。みんなで考えましょう。